

今年も、わが松江駅の「縁結びの広場」に大きなクリスマスツリーを飾った。駅構内に今年はスターバックスコピーが入り、イベントスペースもできて、若い人の通日も随分増えた気がする。

しかも、近年の「パワースポット」「縁結び」ブームで、当地に関しては、遠方から訪れる若い女性2人組というパターンがかなり多い。特に「お母さん」と一緒に訪れる女性の姿も目立つ。当のお母さんは娘を連れつつも、早く孫と一緒に歩きたい気持ちでやまやまなのだろうが。

心街のように中高年やお年寄りの居場所がなくなったわけではない。縁結びの広場で開くイベントでは、伝統芸能だろうがアコースティックのライブだろうが、はたまたハンドベルの演奏や「つのだ☆ひろ」さんのライブにしても、いつも幅広い年齢層のお客さまが集まり、大いに盛り上がっている。

どの出演者も「こんなにおもしろい客層が集まるライブ会場はどこにもない」とおっしゃる。これこそ「松江らしい」、すなわち上品で日本人ら

改札口の外側にこそ仕事



クリスマスツリーが飾られた縁結びの広場で、ハンドベルの演奏を披露するJR社員たち—11月15日、松江市朝日町のJR松江駅

ちんどんち

しい盛り上がり方だと思

う。
私も来年で40歳になるが、こう考えていくと、私か私の少し下くらいの子世代が元気に活動して、お年寄りや子どもたちを

けん引していくことこそ、街の活性化の鍵になるのではないかと自負する。

実際、私くらいの世代は「団塊ジュニア」として1学年200万人を超える世代であり、全人口の中での比率が特に高い。そう思って街に繰り

出すと、最近では結構、私と同世代の人が街の中でも奮闘していることに気が付く。

商品の売り方や店舗の構え、営業時間などを変えてみたり、趣向を凝らしたイベントに挑戦したりしている伊勢宮や駅本通りの若い商店主さんは、心から応援したい。

「うちはこれしか売らない、売り切れたら店を閉める」などというやり方が今後通用するほど、今の日本の生産年齢人口は潤沢ではない。一人二役・三役は当たり前だ。

だから、私も「ちんどんち」になろう。駅長の仕事の傍ら、改札口の外側も向いて、講演も司会も歌も漫才も、断らない！ いや、それこそ「駅長の仕事」にしよう。そう決めた。(JR松江駅長・内山興)

第2、4月曜掲載

